



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学：昭和28年度特殊講義案 第11巻
Author(s)	鈴木，栄太郎
Description	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市の生活構造。都市の空間的秩序。
Issue Date	1953
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77384
Type	manuscript
File Information	N021_013S28.pdf



NOTE BOOK
Special Quality

都市社会学

二十八年度
特殊講義案
中十巻

都市の生活構造

都市の空間的秩序

HIGH CLASS

教
No.123

都市に於ける空間的秩序

一、序説——社会的空間（土地の上に投影された）

二、弘報としての広告における空間

三、都市の増大と空間の拡大——戦

国の国々圏の拡大（社会的規模）

四、都市の内外（都市の内外に於ける社会）

五、空間的構造

五、三種の都市生活地

六、人は何故都市をよりたかはるか移動的であるか

地域的

一定の地域より狭くなるともならない。

第一は東京の地域をおつくりするに
なす。

の女子地域も相互の関係を
持つ。

今、東京の地域を相互の関係で
見る。

東京の地域は相互の関係を
持つ。

を相互の関係で見るに
する。

東京の地域は相互の関係を
持つ。

東京の地域は相互の関係を
持つ。

東京の地域は相互の関係を
持つ。

東京の地域は相互の関係を
持つ。

東京の地域は相互の関係を
持つ。

東京の地域は相互の関係を
持つ。

東京の地域は相互の関係を
持つ。

東京の地域は相互の関係を
持つ。

位氏の御から云へば

① けれども豆腐店の量は向ふから近づいて来

て知りますか。某店の看板は五三

行つて近づく。豆腐店も豆腐の看板は五三

位氏には豆腐店の豆腐が満ちます。その

ので、あつてを知らば、細豆の豆腐かどこで

誰か造る。あつてを知らば、細豆の豆腐かどこで

けれども豆腐店を購入す。物金はそれか

位用ある。某店で買ふか。それか。それか。

位用ある。某店で買ふか。それか。それか。

位用ある。某店で買ふか。それか。それか。

位用ある。某店で買ふか。それか。それか。

位用ある。某店で買ふか。それか。それか。

位用ある。某店で買ふか。それか。それか。

位用ある。某店で買ふか。それか。それか。

一 豆腐店 (豆腐店工業)

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

豆腐店の看板は五三。豆腐店の看板は五三。

⑤ 定して片も三商店は人かゝるに
 足るは令にめもあてあふなる
 は、移動してあつたかゝるも得る
 ので、あふかゝる人の眠のあふあつて行く
 ずかゝるあふる

比率も高い。こゝな高きは都市の生活様式に
 一人通りかゝる

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

一方はこゝから近んで知うせゝ型であり

多量の

顧客はこれに求む購入する様に違ふない

は広告だけでは不可能に信用を要する

か必要である。商人は知つて居る。その

店迄来て購入するに余り不便な事

人はその事柄の人のその附近の人

である。顧客の圈は余り大きくない

エリヤの内の人である。そのより手かた

さくたつたに人は屢に其に現れるもの

商店とパーセントな接觸を求むファンと

しこの好意を感ずると共に深き深く

数字を以て登壇以外のものに同じを求

つ。代々の富の多様と異なり

都市の商業には代々の信用が代々の富の

の根を成てゐる。故に商業は其の富の

代々の富の多様と異なり

然し都市の商業は商店自身の信用

をうゑるに努力する。その努力は

か皆が信用をねがふに努力する。其

の信用は商店の信用である。その信用

の信用は商店の信用である。その信用

の信用は商店の信用である。その信用

の信用は商店の信用である。その信用

の信用は商店の信用である。その信用

の信用は商店の信用である。その信用

の信用は商店の信用である。その信用

の信用は商店の信用である。その信用

の信用は商店の信用である。その信用

の信用は商店の信用である。その信用

の信用は商店の信用である。その信用

の信用は商店の信用である。その信用

店当は、店名を用いない。元々いりも
 ので、大都市内は固定した位置をもち、
 屋の老舗の代用はまた大都市内の
 住民には口傳へに傳へるもの
 である（大抵あり）。その根拠は、
 それが昔いし（^店~~店~~）^店製造販賣
 したので、その製法が子宝傳へてあり
 た。製造販賣せずともそれに近い
 が工夫をこらしたものである。京都の
 牛車漬は新居の昆布を用いたもの
 で、この特殊の風味がある。
 総じて古いものは、むしろ老舗の特色を

のみで、全体的なところを世界的なところとする。

高層は、その時代の産業で、敗路を足る

大量の生産の

ものである。

高層は、そこに集める人が

多いものである。高層には都市は不

用である。高層は人が集まる。

都市にのみ存在するものである。

高層は、バーンサンな人々人の権限を

中堅とし、高層は水の橋に八才に

水の水の流れの分岐点毎に現れる

分層構造が、高層の配分可能で、それか

本来の商業である。商人が物の交換

流の結節構造として、高層

大量生産の商売の波の中に没し去る
商店は只大量生産の商売の流布
の弊を排し(2)としてクサ存続すると
はれよ

林業の発展

村
10
下
下

地方制度

五

都

（二分）

力
2
理

福

212

二六五

萬以上

212

1

7

7

100

征

おれはつゝ

おれはつゝ

私はこゝでは都市税の増大は商店の

税^{又は比率}である事を認め、都市以上の都市に

つては世間を終つて人に税拂ひの分を

によつたのである。

田舎以下のあるものは、都市に

市税を商店の^{又は比率}の多寡に認めたり

は、全く誤りで、^{又は比率}とは思はない。

けれども都市税を決定するものは

商店であることは、今では認め

てゐる。

今では、^{又は比率}の考へては、都市を

村々より区別するより、^{又は比率}都市

國がその範域を有している。其の範域は
 経済的機關とあり得る。例へば
 農学や其の如し。工業は其の如し
 しては國の範域を有する。得る
 之の範域がある。

その範域は経済にあり
 の存在は其の

の大を決定するもの。其の文化的
 的の交流の経済的機關である。
 商業は其の如し。物の交流の
 経済的機關である。政治的交流
 の経済的機關としては、其の如し。
 教育の交流の経済的機關と
 しては、其の如し。技術
 文化の経済的機關として、其の如し。
 機關がある。工業は其の如し。
 経済的機關とあり得る。例へば
 農学や其の如し。工業は其の如し
 しては國の範域を有する。得る
 之の範域がある。

に流れる経済的交流

△因に都市地域の全生業の結節的関係

都市は有す。機關は皆都市機關と解す。

都市は都市なり。不も知れぬ。都市機關の
集まる所は都市である。

すゝを意味する。結節的といふ中核
なるものと知らざしよ。ある。△

都市は格別の結節機關の集まる所
と云ふて、^{あつた}結節機關の機能は
規模の大なるものから集まる。この
上は都市と考へるべきである。

格段場の所在地より互れを同化して
みる。都市所在地は政治的文化方面
の同化に於いては上位の都市と見
る。其來より。支店と本店の同化
をいふ。都市と支店の同化をいふ。知
りぬ。いふ。同化と云ふは甚だ

④ 区域の行政官にふくは所管

国々の意味は統制する範囲、学校

の通な区域、常設区域、商店の

購買者の地域、穀物や物などの置の

買入れの地域、屋根葺の注文者の範

域、床屋の業務の範囲等皆然り

で、その業務の及ぶ地域である。

それ等の各位は皆国々す区域内の

人々に接いつく中心の役地位にあるが、

かくの如き中心を国々す上級の甲

心かゝるれば、その国々かの区域

内にある。故に交流の経済的機

関と云ふ可い。

※

解さる

④ 産業に依りしもの、支配統治は分属、

井へ、よきよきもの、奪取し、奪取

外、よき、総て都市院の上位と下位に

あり、同じく、ある、かくの如き、国々の

次、中央系系、新なりし又、主なる

も、国々は存するもの、存する。

中央集権、その存する、限り都市は

なし、都市が存する、限り中央集権

はさけ、かたきもの、存する、然る

中央集権、その存する、支配統治の

存する、限り都市は存するもの、

存する、都市に、その存在を、

何千年か、

経済的機関の合理的配分として、

労働機関

交通機関
行政機関
治安機関
教育機関
娯楽機関
労働機関
衛生機関

結節的

（中央工区）
（衛生）

労働機関

高層住宅（結節的）

製造工場

都市との関係は支配と被支配の上

に存在してゐるものがある。

五箇階も考へてみる。

1. 高層住宅やサウナを果敢に内部にのみ

労働機関を取り入れる。

労働機関の中に孤立高層住宅や高層

住宅がある。それと孤立高層住宅

の存在。

2. 高層住宅は其果敢に外部の

住宅群の中に孤立高層住宅の存在。

高層住宅

これである。これには高層住宅や

色々のサウナ機関の存在をみる。

二、地
方
的
經
濟

田花内美深名寄旭川札幌
東刻

關水城內

4.
高

常規

施以

共同の存在によ
 全日又は世界市場

に照路を投じて、商売の製造工場や

くぬねの
高取川
にゆをた
我国の極すゝまう
商店
中都系である

5. 土の中を貫き、
根を深く伸ばし、
水を吸い上げる。

2斤2两 金口甜在文世名的大園

圖をしよう様(五)か多敷、その中に板を

二水加大希希

2

の
う
て
い
ふ

張

職域はその住民の生活を保障す。職域はその都市に
ない事業が都市生活のものに都市とは認めし小政。住宅都
市とあるのはあり得ない。

卷之六

柳 士 英

~~12~~

10

新集

19

9

L
 2
 R
 1

固

る家、社会的統一であつて皆それを知り
地域性を予感せしむるものがあるか。
そしてその形は、
都市の
外より内へ、内より外へ向ふ。都市
生活と都市性の混在にあり、
この二面ある。都市は果して混沌と
流の若くしての硬さとするべきか。
か、項を改め、都市の生活地域の
生活構造を足す見やう。

